

個の学力障害要因を学校・家庭・地域の協働で越える

第1、2講座 自尊感情をはぐむ人権教育 [田川市教育委員会 学校教育課長 中野直毅さん]

今年も始まりました。人権教育セミナー！ 高知県が示した7つの人権課題を、一夏で全て学ぼうと思っているあなた！あなたのために今年もセミナーを開催しました。実を言うとこのセミナー、本県の財政を考えると18年度の実施はかなり厳しかったのです。しかし参加したみなさんの「ぜひ18年度も実施を！」「この講座がなくなると高知県の人権教育は停滞する！」という強い要望や意見があったからこそ、何とか存続させることができたのです。(ホッ！)

でも、もう終了してるんじゃないの？ 確かにそのとおりなのですが、少しでも受講した気分を感じていただこうということで、今年も全9講座を「短信」としてまとめることにしました。ぜひ講座の雰囲気味わってみてください。

1 田川市とは、そして中野さんとは・・・

今回の講師は福岡県田川市からお招きしました。田川市というと「青春の門」の舞台となった炭鉱の町(若い方は職場の年輩の方に聞いてね)として有名ですが、人権教育においては「地域と協働した取組」で全国に知られている地域です。中野さんは、その地域の教育委員会学校教育課長という要職に就いている方です。今回、たくさんの事例を紹介していただいた同市の金川(かながわ)小学校の校長を経験された方でもあります。2時間の講演と、それに対する質疑応答で約3時間という長時間(それを2日間もやっていただく厚かまさが人権チームのよさ?)にわたる研修でしたが、次々と報告される具体的な取組(それぞれに裏付けとなる理論があり、研究者としてではなく「実践者」の立場からの詳しいデータ分析がなされ、それを踏まえたきめ細やかな取組がある)にまさに圧倒されっ放しでした。



2 学力とセルフエスティームの逆転現象

金川中学校区は1990年の生活実態調査から始まる16年間ものデータの蓄積があります。子どもの生活にこだわり続けたことを示しています。そのひとつに「肯定的セルフイメージとセルフエスティーム(以下SEと略す)と学力の相関関係」の調査があります。その中で学力は十分ではないにもかかわらず「オレって天才」と発言する子どもの状態を「学力とSEの逆転現象」ととらえ、克服する取組を進めていきました。逆転現象を示す子どもの多くは、厳しい経済状況に置かれていたといえます。そのポイントを伺うと次の何点かを教えてくれました。

○子どもは、「重要な他者」からの温かい期待を受け、誉められることで努力する。

[誉めてもらいたいときに、誉めてもらいたいことを、しっかり誉めてもらう]

○失敗の原因を「能力」ではなく「努力」に帰結させなければならない。[原因帰属]

○コマ(客体)よりも指し手(主体)になることで子どもは育つ。[自己選択・自己決定]

○個々の子どもに自己目標と一斉目標の意味を理解させる。

以上のことを意識して取り組むことで、4～5年で「学力とSEの逆転現象」が回復したそうです。



3 「先生、おつりってなあに？」から、どう取組を展開するかーデータを活用するならここまでしないといー

数年前の算数の授業中のことです。教師の「おつりはいくらになりますか？」の問いに対してひとりの1年生が発したのが、タイトルの言葉です。そこからの動きが違うのが金川中学校区の素晴らしさです。「就学前にしておくべき体験が奪われていること」に気づき、「学力の二極化で、誰の学力が、なぜ低下しているのか」「誰の学力を取り戻すのか」「それに向けて、『重要な他者』とともにすべきことは何か」などを協議したうえで実践を進めていきます。その結果、多少時期が遅れたとしても本来しておくべき「プレ体験」を小学校でさせることにより、十分に補えることを示してくれました。(今では、格差を超える取組を保育園・所や学校、家庭の協働で行えるようになったそうです。)

当日は、縦に「1対1対応」「数の順位性」「時計課題」といった「見なしの学力」を、横に「朝食を食べる」「就寝時刻」「がまんする」など就学前で保護者に対して実施した「アンケート項目」を一覧表にまとめ、それぞれの相関関係を示した資料を提示してくれました。「例えば『紙工作』はいろいろな見なしの学力と高い相関関係があることが分かります。その活動をしていれば伸びるということではなく、活動の中で重要な他者との言葉やまなざしのやりとりがあるからこそ伸びるんです。」と解説してくれました。(紙面の関係で詳細は省きますが、資料はセンターにあります。)

他の学校なら聞き過ぎしているかもしれないことを取り上げ、職場全体で協議し、自校の特色となる取組に変えていく・・・学ばなければならない姿勢ですね。



4 肯定的SEを育てる授業づくり ー意味づけ 価値づけ 方向づけー

「いろんな条件が整って初めてSEは伸びるんです。SEの育成だけを求める授業なんてありません。それをまず理解すべきですね」まずは安易にとらえかねない受講者の気持ちをビシッと締めつけた後、中野さんは取組を丁寧に紹介してくれました。印象に残ったのは「3つのづけ」です。中野さん曰く「ベーシックなことを徹底する。結局はこれが近道です。金川中学校区では、この取組を徹底することによって教師が随分鍛えられました。」

○その子どもの中で「意味」づけ、集団の中で「価値」づけ、学習活動を「方向」づける。

○振り返りの場面で自己評価活動と相互評価活動を行う。

○メタ認知が働く振り返りが行えるよう工夫する。



5 学校づくり 地域づくり 「子どもに対して地域とともに責任を持つ」

まずは教職員について。ここまでの集団になるまでにどんなことをしてきたのかなあと思っていたら、次のような説明がありました。「今週は『評価規準』について、来週は『総合的な学習のねらい』について、というように土曜日ごとにテーマを決めて自主的に学習会をしてきました。もちろんレポート持参です。何のためかって？それは『概念を理解し、心をひとつにする』ためですよ。この学習会によって、誰もが『取組の主体者』になっていくんです。」

次は「学校便り」について。「金川中学校区には学校便りがありません。」あまりにもサラッとされたので、「えっ！」と思うまでに少し時間がかかってしまいました。よくよく話を聞いていくと「子育てネットワーク」から通信が発行されているのです。学校からでは子どものいる家庭にしか届きませんが、金川方式だと区長から配られるので、全地域に届きます。地域の子どもの学校での様子、学校が重点的に取り組んでいることなどを発信していくので、地域と学校がとても近い存在となっていくそうです。実際に地域で小中PTAの「飲み会」を企画すると100人を超えるそうです。こんな地域ですから、NRT（全国標準診断的学力検査）のテスト料は保護者が負担し、学校はしっかりと分析して個人カルテを作成します。成果と課題を通信で再度地域に知らせるというサイクルをうまく機能させています。

続いて「モデル像」の話。七夕の夜、子どもたちが自らの将来の夢を書いた短冊が風に揺れています。

「プロ野球の選手になれますように！」「アイドルになりたいな！」という微笑ましい言葉が綴られています。

中野さんはその子たちにこう投げかけたそうです。「〇〇になりたいんだね、じゃあきみは、そのために何をやるの？」そして、こう解説してくれました。「この質問に対して多くの子どもが何も答えられずに困ってしまうという現実があるんです。モデルの実態がないんです（漠然としているということ）。だから金川校区の取組では、身近なモデル像を強く意識しています。金川校区には子どもの身近なモデルがいっぱいいますよ。」

学校に来ていただくゲストティーチャーの年齢層は、他校と比べると高齢の方よりも子どもと年齢の近い若い方が多いそうです。「それはなぜですか？」と質問すると、「金川では地域の未来を青年の価値観に託しています。子どもたちと青年たちを「憧れ～憧れられる」関係にしたいんです。この関係の復権をねらっています。」と答えてくれました。



6 受講者及び担当者の感想から

★「アナログ時計の話」が印象に残っている。日頃何気なく「時計の長い針が6のところにきたら終わりにしようね」なんて言ってきたけど、もしかしたら、クラスの中に家にアナログ時計がない子どもがいるかもしれないなどという事に思いをめぐらせることはできていなかった。時計という言葉から、針のあるアナログ時計を想像するのはおとなの発想であり、家にデジタルの時計しかないという子ども、それもビデオデッキなどについている、おまけのようなデジタル時計が、その子にとっての時計である場合もあるのではないかと、言われたときには胸がズキンとした。今さらながらに家庭訪問の重要性を再認識した。この鋭さを「人権感覚」というのだろうか…。

★この講座の1か月前、金川中学校区で暮らしている工藤さんのお話を聴く機会があった。工藤さんのお話と姿を思い浮かべながら中野先生のお話を伺った。そういえば、あの時も田川市から小学校の先生が一緒にきていたなあ。金川は本当に地域と近い学校なんだなあ。学校が「Help！」の手紙を出すと、その次の日には必要な人員がそろっているのが、金川の当たり前。そんな学校を、ぜひ高知にもつくりたい。

★★★ 県内の取組の発表もありました ★★★

県内にも進んだ取組はあります。今年は下記の3本の報告でした。

（紙面の関係で、県外の実践中心の短評となっています。お許しください！）

★①たとえしんどい現実があったとしても、保育所にいるときはそれを忘れられることをめざして、若い保育士を育成し、保護者にもしっかりと向き合っている**香南市立赤岡保育所**〔久武美紀副所長の懸命な熱い語りには、参加者100人が聴き入りました〕

★②協力的な地域の方々とともに、やろうと決めたことを組織として徹底してやりきることと成果をあげている**南国市立大湊小学校**〔作見泰徳教諭による、人間関係づくりを土台とし、7つの方策を示して基礎学力の充実に取り組む教科学習と豊かな体験をめざした「みなとっ子タイム」の説明は明快でした〕

★③計画的に校内研修を重ね、自尊感情テストの分析を通して客観的に成果を見取りながら取組を進めている**土佐市立高石小学校**〔国澤美知教諭の丁寧な説明のうえに、研究発表会の資料（冊子）もいただけたので、取組が十分に理解できました〕